

タイトル	手話サークルが社会に果たす機能とは？		
所属	中京大学現代社会学部 岡部ゼミ	氏名	福永 千夏

＜研究背景＞

手話サークルに通い始めて、  
40～50代の女性が多いことに気づいた！  
→なぜシニアの女性が多いのか・・・

↓  
＜予想＞

専業主婦が多いから？  
時間に余裕があるから？

手話サークルに通う人にとって手話サークルの  
存在とは・・・

- 視点
- ①問い：手話サークルが社会に果たす機能とは？
  - ②方法：アンケート調査



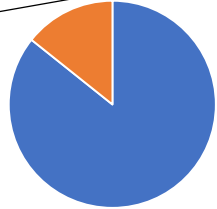
③調査内容

【アンケート調査】

回答者6名（男/女：1/5） / 会員数25名

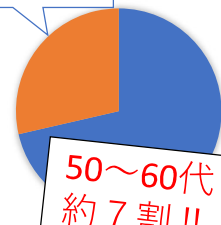
性別

約9割女!!



年齢

10～20代



50～60代  
約7割!!

ご職業

回答者全員  
仕事あり

→専業主婦いない



50～60代の女性が多いのは  
仕事の有無には関係ない

手話サークルは何処に行っても女性が多いです。男性は1割くらい。理由の一つは**残業**などで時間が取れないかな。（男・50～60代）

あなたにとって手話サークルはどんな場所？



友達に会えて、勉強できる場所



学びと仲間づくりの場所



ろう者と交流できる場所

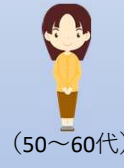
手話サークルの社会的な位置づけは？



ろう者と聴者の相互理解の促進



ろう者と聴者をつなぐ場所



ダイバーシティの考え方を広げていく一助

④考察

- シニアの女性の方が社会参加する機会が多い
- 手話サークルはそこに通う人たちにとって・・・
  - ・ろう者との出会い、交流の場
  - ・学びの場
  - ・友達に会える、友達ができる場
- 手話サークルは社会にとって・・・
  - ・ろう者と聴者の相互理解の促進
  - ・シニアの女性が社会参加する機会の提供
  - ・ダイバーシティの考え方の拡大

⑤今後の展開

- ・女性と男性の社会参加への関心の違い / 多様性や相互理解などの社会課題解決への意欲の違い
- 手話だけに限らず、サークルが今後共生社会を実現していくためにどのような機能を果たせるのか？
- ・手話＝他言語、**マイノリティー言語**に興味をわいた
- 今後は手話やろう者にも視点を当てて調査をしたい！

→ 外国とも比較してみたい！ [福永 2021]

「ろう者は手話という言語を持つ**マイノリティー**であるというよりも障害者であることに注目されてしまうという特徴があり、このことは手話とろう文化の認知をいっそう困難にさせている。」 [福永 2021]

【参考文献】

- ・ 齊藤くるみ『少数言語としての手話』東京大学出版会、2007年、ii－はじめに
- ・ グロース、ノーラ・エレン（佐野正信訳）『みんなが手話で話した島』築地書館、1991年